日本歯科大学新潟病院・医科病院と患者さんをむすぶ

日本歯科大学（新潟病院 医科病院）

アイヴィ通信

Vol.35 2017.12.1

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

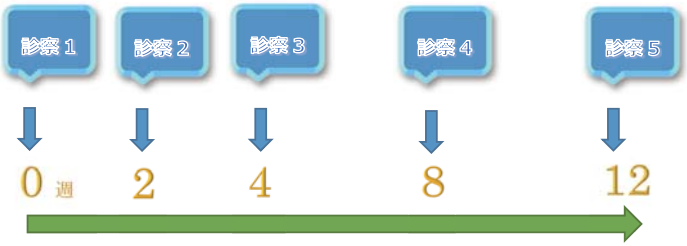
あなたもわたしも超高齢社会を健やかに生きるために
～禁煙外来のご案内～

医科病院 内科
長谷川勝彦

からだに必要な酸素や栄養を運ぶ血液は、全身血管の大半を占める毛細血管を流れて全身を廻っています。血管の老化現象である動脈硬化症の予防には、高血圧症、糖尿病、脂質異常症の初期治療として、生活習慣の見直し、規則正しい生活、栄養バランスのとれた食事、適度な運動に加え、できるだけ早期に禁煙することがとても大切です。喫煙は動脈硬化症以外にも、慢性呼吸器疾患、がん、歯周病の重大な危険因子です。歯周病は糖尿病や動脈硬化症と関連しています。従って歯科と医科が協力して歯科の病気の背景に潜む全身性の病気を早期発見し、疾病対策と禁煙支援を行うことはとても重要です。

医科病院では平成29年9月25日に禁煙外来をスタートしました。新潟病院を受診中で担当医から禁煙治療を勧められたかた、健康診断で血糖、血圧、中性脂肪やLDLコレステロールが高値で、これから禁煙にトライしようとお考えのかたに、禁煙外来をご案内します。近年、煙草を吸わない人への副流煙による受動喫煙という健康被害が問題視されています。ご家族、お子様、妊娠・出産予定女性、職場の若い同僚など、あなたの周囲にいる煙草を吸わない人の健康への配慮が必要とされる時代です。この問題の重大さを認識し、禁煙を決意されたかたにも禁煙外来の受診をご案内します。

禁煙外来では、ニコチン切れ症状を軽くする飲み薬（チャンピックス）による治療法かニコチンを含む貼り薬（ニコチネルTTS）による治療法のどちらかを選択していただき、12週間かけて5回の受診で治療を行います。治療の要件を満たす場合は健康保険等が適用されます。詳細は医科病院禁煙外来にお尋ね下さい。診療日は毎週月曜、14時～15時、完全予約制です。禁煙外来担当医は医科病院の内科医師（交代制）です。禁煙外来の看護師があなたの禁煙治療をサポートします。どうぞよろしくお願いします。



専門外来の紹介
ーMRONJ外来が開設されましたー

●新潟病院 MRONJ外来
医長
小林英三郎

◆MRONJ外来

MRONJ(ムロンジェイ)外来とは平成29年7月1日より新たに開設された外来です。MRONJとは、お薬の副作用からはじまる、顎の骨が壊死する病気で、日本語では「薬剤関連顎骨壊死」といいます。“Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw“という病名から、国際的に“MRONJ”と呼ばれています。

◆MRONJの発生率

MRONJになってしまうと、お口の中の粘膜や歯肉が破れ、顎の骨が見えてしまったり、痛みを感じたり、膿(うみ)がでることもあります。特に下顎(下あご)の場合、進行すると下顎の皮膚の感覚異常が出てくることがあります。この疾患は自然に治ることは少ないです。

◆MRONJの原因薬剤

原因となる薬で多いのは、骨粗鬆症の治療や予防に使われるお薬です。お薬リストを載せていますので(表1)、該当する薬を服用していないか、お薬手帳と照らし合わせて下さい。お薬を使用している方の全てが、MRONJになるわけではありませんが、心配な方は是非MRONJ外来に相談して下さい。(注：一部のがんの治療薬でもみられることがあります)

MRONJの原因となりうるお薬リスト

	内服薬	注射薬
ビスフォスフォネート	アクトネル錠 アレドロン酸錠* エチドロン酸錠* ダイドロネル錠 フォサマック錠 ベネット錠 ボナロン錠 ボノテオ錠 リカルボン錠 リセドロン酸Na錠* リセドロン酸ナトリウム錠*	アレディア点滴静注用 ゾメタ点滴静注用 ティロック注射液 パミドロン酸二Na点滴静注用 ボナロン点滴静注 ボンビバ静注 (*はジェネリック)
デノスマブ		プラリア皮下注 ランマーク皮下注
ベバシズマブ		アバスチン点滴静注

●表1

◆リスク因子

お薬リストの薬剤を使用してる以外に、以下のような方がMRONJになりやすいと考えられています。

- 抜歯をした方
- 歯周病がある方（歯肉から出血する、歯がグラつく等）
- 入れ歯があってない方
- 歯磨きが苦手な方
- 糖尿病の方
- 喫煙をされている方
- ステロイド系薬剤を飲まれている方

◆治療方針

検査についてですが、まずは詳しくお話をお聞きします。（骨粗鬆症の状態や、治療歴、内服薬の種類、内服期間など）その他に、口腔内診査、単純レントゲン検査（パノラマX線検査）をいたします。必要に応じて、CT検査、MRI検査、核医学検査（骨の炎症の範囲を調べるため）などの追加検査を行います。

治療は、専門の歯科医師・歯科衛生士による特別な口腔ケアを定期的に行います。患者様に応じて、個々の治療方針を決定致し、手術が必要になることもあります。（全ての方に手術を行うわけではありません。）

特にここの専門外来での特徴は、使用中の薬剤を中止することなく、お口の治療を行うことです。薬剤を中止することによって原疾患（骨粗鬆症など）の治療を妨げたくないからです。

また、MRONJの予防にも力を入れています。MRONJを発症させるリスクを減らすことも重要ですので、MRONJが発症していない方にも、予防指導を積極的に行っております。

骨粗鬆症治療中でご心配の方は、お気軽にご相談いただければと思います。

期待される歯髄細胞をもちいた再生医療

ー歯の細胞バンク外来が開設されましたー

●新潟病院 歯の細胞バンク外来
医長
佐藤　英明

2017年9月1日に新たな特殊外来である「歯の細胞バンク外来」を開設しました。

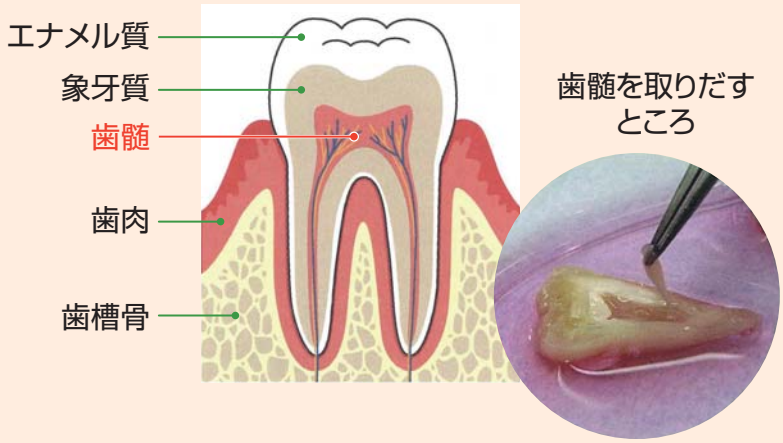
近年、身体の組織から組織幹細胞（さまざまな細胞に育つ能力を有する細胞）を取り出し、この幹細胞から必要な組織を作り、機能不全に陥っている器官に移植して機能を再生する医療が可能になってきました。

歯の中にある神経（歯髄）にはその幹細胞が存在しています。歯髄には優れた「変身能力」があり骨、脂肪、神経など様々な細胞に変わることが出来ます。そこで、将来の再生医療のために乳歯、矯正治療で抜歯する歯や親知らずの歯髄が着目されています。

基本的には抜いた歯は捨ててしまうことが多く、また、抜いたままの状態で自宅で保存しておいても歯髄の細胞は死んでしまいます。しかし、抜いた歯を特殊な培養液に入れ歯の細胞バンクで保管した場合、その細胞を半永久的に液体窒素の中で保存することが可能となります。また、将来病気やケガなどで組織を失った場合、ご自身の細胞を再生医療に使用できる可能性があります。

歯の細胞バンク外来はこのように抜いた歯の神経（歯髄）を管理・保存するための外来です。

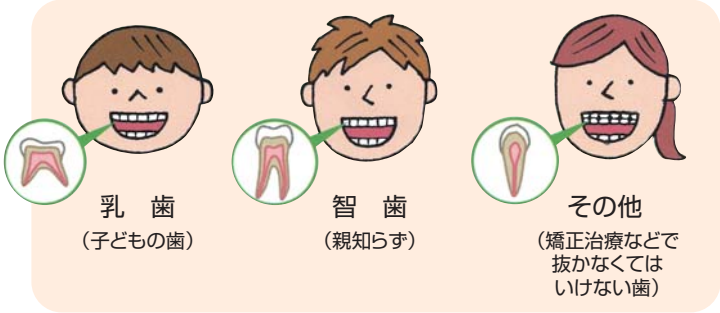
◆歯髄ってなに?



歯髄とは、歯のなかにあるやわらかい組織のことです。歯に栄養をあたえる血管や、痛みを感じる神経が入っています。

また、組織を作るもとになる細胞である「幹細胞」も含まれています。

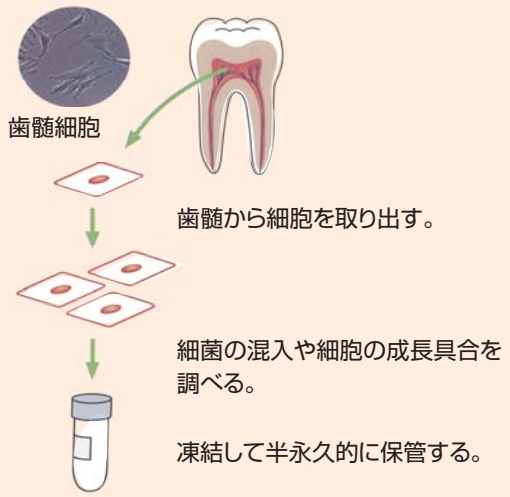
◆どの歯の歯髄が使えるの?



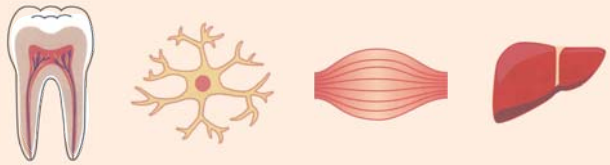
大人の歯に生えかわるために抜ける乳歯や、治療のために抜く必要のある親知らず、矯正などで抜く歯などから歯髄を取りだすことができます。

●すべて抜歯による治療が必要と診断された歯に限ります(歯の細胞バンクのための抜歯は行いません)。

◆歯髄細胞の保管方法



◆期待される歯髄細胞を用いた再生医療は?



歯髄の幹細胞は、神経、肝臓、膵臓、脂肪の細胞に育てられることが知られており、さらに研究がすすめば、肝硬変や糖尿病の治療もできるようになってくるでしょう。

さらに、心臓、腎臓、皮膚、眼、骨などの再生へと可能性が広がります。

◆費用について

歯の細胞バンクの費用

初年度費用	5万円
年間保管費用	2万円

（消費税は含みません）

↓

再生医療などに使うとき
細胞を起こしてみたら…

- 細胞がふえなかった
- 細胞が感染していた

→ 費用は返金します

- 神経や筋肉などの細胞に変身しなかった
- 細胞を移植しても病気が治らなかった

→ 費用は返金しません

●上記費用の他に抜歯料金やお薬などの料金がかかります。
詳細については担当医にお問い合わせ下さい。

新潟病院 臨床研修歯科医師のコラム

第30回 誤嚥性肺炎

総合診療科
●石崎　拓郎　●花岡　玲緒　●中尾　優希

わが国は現在、死因別に見ると第一位が悪性新生物、第二位が心疾患、そして第三位が肺炎です。肺炎が第三位に上昇したことは、超高齢社会に突入している現状と深く関係しています。高齢者の肺炎の中で死亡率が高く、治療が困難と言われているのが「誤嚥性肺炎」です。これは飲み込む力が弱くなることにより、起こりやすくなると言われています。

本来、飲み込む時に水や食べ物は食道へ送り込まれます。しかし、飲み込む力がうまく働かないと食道ではなく、空気の通り道へ間違って入ってしまいます。そして、口の中の細菌が水や食べ物と一緒に流れて感染を引き起こします。この状態を「誤嚥」と言い、気道からさらに肺へ感染が進むと「誤嚥性肺炎」となります。「誤嚥」は食事中だけに起こるとは限りません。夜寝ている時につばが細菌と一緒に流れ、自覚のないまま「誤嚥」してしまうこともあります。

飲み込む力が弱くなる原因は様々です。脳に病気がある方や認知症、寝たきりや加齢などが挙げられます。飲み込む力はトレーニングにより鍛えることができます。トレーニングの種類には色々なものがありますが、今日から簡単にできるものを紹介します。

口を
閉じた状態

大きく口を
開けた状態

まず、口を閉じた状態から始めます。その次に10秒間大きく口を開けた状態を保ちます。10秒経ったらまた口を閉じた状態に戻し、10秒間休憩します。これを1日10回行います。

飲み込む力のトレーニングだけでなく、もう一つ大事なことがあります。それは口の中をきれいに保ち、細菌の数を減らすことです。どちらも1日で済むものではありません。毎日続けることで予防へとつながります。是非これを機会に試してみて下さい。

編集後記

■テレビを見ていました。寒い時期だったので鍋料理の特集。地方によっていろいろな食材を使うことが紹介されていて、興味深く見ていました。昔、中学の修学旅行の宿泊先で夕飯にすき焼きが出た時に、思わず「豚肉じゃなく牛肉が入っている。」と言ってしまい、友達に大笑された記憶がよみがえりました。（善）

日本歯科大学新潟病院・医科病院
アイヴィ通信
Vol.35 2017.12.1
発行日／平成29年12月1日　発行人／山口 晃　大越 章吾
〒951-8580　新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代)　FAX 025-267-1546(支援室直通)